

【施設状況】

グループ名称	もんぜんぱら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)									
指定管理者名	特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト						法人番号	6100005002075		
所管課	主	117000	保育・幼稚園課	副						
構成施設		もんぜんぱら座こども広場(じゃん・けん・ぽん)								
施設分類	06	保健福祉2型		施設利用者圏域	01	地域施設	利用制適用区分	01	代行制	
施設概要	床面積860㎡ 遊び場、活動室、相談室、会議室、お昼寝室、授乳室、おむつ替えコーナー、こどもトイレ、親子トイレ(車いす対応)、受付、事務室									
施設設置目的	乳児及び幼児とその親子の子育てに対する悩みや不安を解消し、もってそれらの者の福祉の増進を資するため、子育て支援の拠点施設として設置する。									
基本方針等	指定管理者の創意工夫に基づいた管理運営により、質の高いサービスを利用者に提供するとともに、地域に根差した施設となることを目指す。									
主な実施事業	①子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ②子育てに関する相談 ③子育てグループ等の育成 ④子育てに関する情報提供 ⑤遊びに関する指導助言 ⑥子育て情報誌の発行 ⑦子育て講座イベントの開催 ⑧ホームスタート事業 ⑨利用者支援事業 ⑩その他子育て支援に関すること									

【項目評価基準表】

評価	評価基準
5 (優れている)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上で、指定管理者のノウハウや努力等によるところが特に大きい
4 (良い)	・協定、事業計画に基づく管理運営や事業の実施が期待以上
3 (普通)	・協定、事業計画が予定どおり実施された
2 (劣る)	・協定、事業計画の一部が予定どおり実施されない ・管理運営の一部において、市の指導が必要
1 (悪い)	・協定、事業計画が全て実施されない ・管理運営の全てにおいて、市の指導が必要 ・市の指導を受けてもなお、全く改善が図られない

【評価項目】

1 指定管理者の健全性

指定管理者名		特定非営利活動法人 ながのこどもの城いきいきプロジェクト			当該指定管理者の 指定回数		4 回	
指定期間		令和4年4月1日 ~ 令和9年3月31日 5年			当該指定管理者の 管理運営開始日		平成18年4月1日	
指定 管理 者の 健 全 性	施設の設置目的や市が示した基本方針、また、自ら提案した内容に沿った管理運営であったか。 また、団体の財務状況や組織体制は、管理運営実績のある他施設での管理運営状況も踏まえ、良好で、健全か。							評価
	特記事項 (問題等があった場合に、 その内容等を記入)							4

2 施設の有効活用

施設利用状況 (利用者数、件数、稼働率など)	利用区分等	単位	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	対前年比	評価
	利用者数	人	17,017	17,412	23,819	40,912	172%	4
	(内 出張広場参加者)	人	347	325	572	798	140%	
	新規登録乳幼児数	人	498	673	737	1,736	236%	
	専門家相談人数	人	323	310	321	363	113%	
	子育てコンシェルジュ相談数	件	2,999	3,483	3,299	2,867	87%	
	ホームスタート訪問家庭数	人	58	59	96	95	99%	
	(特記事項) 利用制限が撤廃されたため、利用者数はコロナ前に戻りつつある。出張広場についても、保護者同士の関わりが持てる場所を求めて参加者が増えた。相談について、コロナ禍では、他の気軽に相談できる場所も利用制限をしていたため、相談件数が増えていた。収束に伴い保護者同士でお互いに子育ての困り感などを共有することで、不安等が解消されている要因もあり、コンシェルジュへの相談が減少した。専門家相談は、身近で専門家の相談できる利点が周知されてきているため、増加傾向にある。							
区分	協定内容・指定管理者提案			追加事業、未実施事業及び未実施の理由				
事業実施内容	市指定事業	① 子育て中の親とこどもの交流に関する事業 ② 子育てに関する相談 ③ 子育てグループ等の育成、 ④ 子育てに関する情報の提供 ⑤ あそびに関する指導及び助言 ⑥ 子育て情報誌の発行 ⑦ 子育て講座、イベントの開催 ⑧ ホームスタート事業 ⑨ 利用者支援事業(子育てコンシェルジュ) ⑩ その他子育て支援に関すること			・来館者100万人達成記念セレモニー ・広場開設20周年記念事業 講演会(公開講座)「頼り上手」「手抜き上手」の子育てへ 講師 倉石哲也氏			
	自主事業	・講座の開催 ①ながのわくわくパパ講座 ②休日マタニティセミナー ③ノーバディズパーフェクト講座 ・地域と連携した広場の開催 ①ゆりかごの会 ②サンサン広場(榎堂イーストプラザ) ③アップルキッズ(浅川社会福祉協議会) ④あそびましょ(東部保健センター 月2回) ・スタッフ研修			・長野市教育委員会委託事業 長野市キャリア教育推進事業「赤ちゃんだっこ」 ・地域と連携した広場の開催 お母さん何でもトーク(若槻住民自治協議会) 防災講座(長野市緊急時における子ども支援ネットワークと共催)			
サービス維持・向上の取組み(広報等)		5月8日より新型コロナウィルス感染症が5類に移行したことに伴い、利用制限を解除。ホームページやブログ等で周知を図り、コロナ前と同じようにお食事コーナーやお昼寝室も開放。週刊長野に「子どもも親も生き生きと」を寄稿し、子育て支援の情報を月1回提供。						

3 利用者評価

区分		内容		評価
利用者要望把握	(1) 利用者要望把握方法	利用者アンケート		4
	(2) 調査、会議等の内容 ・講座等アンケート:各講座終了時にアンケート調査、更に一人ひとりから感想や要望等の聞き取り(散髪講座・パパ講座等) ・ホームスタート事業利用者アンケート:利用の前にモニタリングを実施しニーズを調査。活動終了後に事後評価し、充足度を確認。(調査対象家庭数63家庭) ・日頃から、スタッフが利用者とは話をすることで、感想や要望を直接聞き取っている。 ・施設内に「利用者の声コーナー(投書箱)」設置し、利用者の声を把握するようにした。			
	(3) 調査、会議等の結果 【こども広場】 ・講座等のアンケート結果は、次回の講座運営に生かした。 ・利用者からの投書には、一人ひとりに返答するようにしている。 【ホームスタート・講座等】 ・運営の参考や講座のニーズの参考として利用			
利用者評価	(1) 良好とする評価 【こども広場】 ・散髪講座のアンケートでは、参加者の95%が満足・やや満足だった。実際に体験できることが満足感につながった。 ・パパ講座のZoom開催は、本音で子育てを語れる場として、満足度100%だった。リアル開催3回実施(公園遊び、焼き芋大会、雪遊び)し、普段できない体験ができた満足度100%だった。 【ホームスタート】 ・全体のニーズの充足率は99%に上った。中でも1番多いニーズは「孤立感の解消」で、事後評価の充足率は100%だった。 ・産前家庭のニーズでは「上の子の成長・発達を促す機会を作る」が1位で、事後評価の充足率100%だった。			
	(2) 苦情・改善等の要望事項 【こども広場】 ・入館時に、手洗いをするように言われているが、手洗い場の床が、濡れている時がある。足が濡れてしまうとの声あり。滑って転んでしまった子どももいた。 ・おもちゃが出しっぱなしになっていて、踏みそうで危ない。片づけていかない親子がいる。			
	≪対応措置≫ 【こども広場】 ・コロナ禍のように、一斉に入館すれば、床の清拭も1回で済むが、随時入館するようになり、床が濡れていることに気づかないことがある。常にスタッフがフロア内の環境に注意し、すぐに拭けるようにモップを手洗い場の近くに設置した。 ・おもちゃは使ったらその都度片付けるように利用者に依頼しているが、出しっぱなしで帰ってしまうことも多い。館内を巡回し、使っていないおもちゃがあったら、片付けるようにしている。			

4 事業収支

No. 27

事業収支 (単位:円)	指定管理者収支(令和5年度)				市の収支				評価		
		年度計画額		収支実績額			令和5年度決算		令和4年度決算(前年度)		
		項目	金額	項目	金額		項目	金額	項目	金額	
	収入	利用料金		利用料金		歳入	使用料		使用料		3
指定管理料		28,379,000	指定管理料	28,379,000	雑(納付金)			雑(納付金)			
委託料		566,000	委託料	384,525	行政財産目的外使用料			行政財産目的外使用料			
販売収入等			販売収入等	11,140	貸付料			貸付料			
その他収入			その他収入	60,000	その他			その他			
参加費		80,000	参加費	28,700	国・県補助金		11,510,000	国・県補助金	11,728,000		
広告料		100,000	広告料	81,500							
計		29,125,000	計	28,944,865	計		11,510,000	計	11,728,000		
支出	人件費	22,348,000	人件費	21,875,864	歳出	指定管理料	28,379,000	指定管理料	28,271,000	3	
	設備管理費	48,000	設備管理費			委託料		委託料			
	備品購入費	250,000	備品購入費	94,600		需用費		需用費			
	修繕費	300,000	修繕費			役務費		役務費			
	光熱水費		光熱水費			使用料・賃借料	459,842	使用料・賃借料	15,996		
	事業費	3,228,000	事業費	3,524,792		修繕費		修繕費			
	事務経費	701,000	事務経費	862,520		工事請負費		工事請負費	424,600		
	本社経費	700,000	本社経費	700,000		備品購入費		備品購入費			
	その他	1,550,000	その他	1,333,600		その他		その他			
	補助金		補助金			0	補助金	590,848			
計	29,125,000	計	28,391,376	計	28,838,842	計	29,302,444				
自主事業	収入		収入								
	支出		支出								
	自主事業損益	0	自主事業損益	0							
損益	0		553,489		差引	-17,328,842		-17,574,444			
人件費比率【人件費(賃金等)／令和5年度指定管理者事業支出】(支出に占める人件費の割合)									77.1%		
本社経費が、計画額と実績額で異なる理由											

5 管理運営全般

※ すべて ☒ で、「3」、「4」、「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

区分	確認内容		チェック欄	評価
職員配置	1 施設管理運営に必要な人員が、適正で有効に配置されているか		<input checked="" type="checkbox"/>	4
	配置実績 (うち市内雇用職員数)	運営責任者1人(1)、副責任者2人(2)、チーフスタッフ3人(3)、スタッフ12人(12)、コンサルタント1人(1) 合計 19人(19人)		
	2 専門性を備えた職員、有資格者が必要に応じて配置されているか			
	3 労働関係法令を遵守し、職員の適正な労働条件を確保しているか			
	4 職員の資質・能力向上を図り、施設を適切に運営するための取組みや研修がなされたか			
平等利用	1 特定の団体や個人に偏らない、公平・公正な、透明性の高い運営がなされたか		<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 使用許可、減免等の事務手続きが適切に行われたか			
経理	1 施設の管理運営に係る収支の内容や、指定管理料、利用料金等の取扱いは適切に行われたか		<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 収支内容等を記載した帳簿を整備しているか			
施設・備品の維持管理	1 必要とされている保守、点検、清掃、保安、警備等、必要な維持管理業務が確実に実行されたか		<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 備品はⅠ種、Ⅱ種を明確にし、それぞれ台帳、目録等を整備の上、管理が適正に行われたか			
セルフモニタリング等	1 日常的、定期的に業務の点検、監視が行われたか		<input checked="" type="checkbox"/>	4
	2 事業計画・報告書、予算書・決算書や、施設の利用状況などの定期報告、点検・検査結果報告などが遅滞なく提出されたか			

6 危機管理体制

※ すべて ☒ で、「3」。1カ所でも空欄の場合は「1」「4」「5」とする場合は、評価理由欄に理由を記載してください。

No. 27

危機管理体制	区分	確認内容	チェック欄	評価
	安全対策	1 危機管理マニュアルなどが整備されているか	<input checked="" type="checkbox"/>	3
		2 危機管理マニュアルなどの内容が職員に周知されているか		
		3 常に、日常の事故防止などに注意を払っているか		
	個人情報保護	1 施設の利用者の個人情報を保護するための対策が適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>	
	防犯、防災対策	1 防犯、防火などの対策、体制が適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>	
		2 防災訓練など、必要な訓練が実施されたか		
	緊急時対応、体制	1 事故発生時や非常災害時の対応などが適切であったか	<input checked="" type="checkbox"/>	
		2 必要な保険に加入するなど、利用者などからの損害賠償請求への対応措置が講じられているか		

7 地域連携

地域連携	地域の声を聞く体制や、協働で地域貢献ができる運営であったか。市内雇用や市内事業者から物品を購入する等、地域を活用した管理運営であったか。障害者就労施設等からの物品及び役務の調達に努めたか。		4
	協定内容・指定管理者提案	追加された内容、未実施の内容及びその理由	
	<ul style="list-style-type: none"> ・地元商店街主催行事やNPO等の行事への積極的参加(灯明まつり「ゆめ灯り絵展」、ながの子ども・子育て応援フェスティバル、地域まるごとキャンパス2023) ・地元業者と協力して子育て講座の開催(散髪講座) ・中心市街地の業者と取引し、備品や消耗品等を購入している。 ・まちなかリユースマーケット(権堂イーストプラザと共催) ・教育機関との連携(長野県立大学健康発達学部こども学科、長野看護専門学校、清泉女学院大学看護学部・短期大学幼児教育学科) ・スタッフはすべて市内雇用 	<ul style="list-style-type: none"> ・長野市教育委員会委託事業 ・長野市キャリア教育推進事業「赤ちゃんだっこ」再開 ・教育機関との連携 ・清泉女学院短期大学幼児教育学科「子育て支援」を担当し、見学実習の場を提供 ・地域と連携した広場の開催 ・お母さん何でもトーク(若槻住民自治協議会) ・防災講座(長野市緊急時における子ども支援ネットワークと共催) 	

【総合評価】

総合評価				
評価項目	評価	得点		
指定管理者の健全性	4	8	合計得点	
施設の有効活用	4	16		
利用者評価	4	16	74	
事業収支	3	6		
管理運営全般	4	8		
危機管理体制	3	12		
地域連携	4	8		
評価理由				
<p>・「指定管理者の健全性」について、地域の子育て支援拠点として設置目的や基本方針を踏まえ、地域や他の機関等と連携した運営がされており、財務状況・組織体制共に健全・良好なため「4」とした。</p> <p>・「施設の有効活用」について、新型コロナウイルス感染症が5類へ移行したことに伴い、人数制限や時間制限を設けず、多くの利用者が満足して利用できるよう対応した。また、コロナ禍に見合わせていたイベントを再開して、子育て家庭への充実した支援が実施できたことから「4」とした。</p> <p>・「利用者評価」について、利用者アンケートにより、全体的に満足度が高かったこと、結果や課題をスタッフ間で共有し、よりよい運営のため常に課題等に真摯に向き合い、努力を怠らない点から「4」とした。</p> <p>・「運営管理全般」について、高い専門性を備えた職員を多く配置し、利用者に寄り添った対応ができている点、また常に衛生管理に細心の注意を払い、来館者が安心・安全に利用できるよう館内の清掃等適切に実施されている点から「4」とした。</p> <p>・「地域連携」について、スタッフは全て市内雇用、地域主催の行事等への積極的な参加、地域事業者や教育機関との協働・連携により地域を盛り上げ、貢献できた点から「4」とした。</p>				
取組み・改善案等 (施設所管課)	前年度からの課題		改善状況	改善案等(改善されていない場合)
	・関係機関と連携し、子育てに不安や心配を抱えている子育て世帯の支援体制を整える。 ・新型コロナウイルス感染症の5類移行に伴う施設の運営や体制づくりを行う。		・地域の子育て支援の中核として、各専門機関との連携により、妊娠期からの途切れない支援ができている。 ・5類移行に伴い、制限の解除やイベントの再開、引き続き感染症対策の消毒等を徹底し、昨年度より来館者数が大幅に増加した。	
次年度の目標・取組み等 (施設所管課)		・コロナ禍前の利用者数が想定されるため、より親しみやすいこども広場として多くの親子に利用してもらうための体制づくりやイベント等を計画していく。 ・こども広場が身近な相談場所として、子育てコンシェルジュ等スタッフがより自覚を持ち専門性を発揮していく。 ・1歳児の母親の就業率が年々増加しており、子どもが小さな頃から保育所等へ預ける家庭も増加している。こども広場が、貴重なふれあいの時間を過ごすための場となるよう、土日祝日を中心に働く保護者と子どものための支援をより充実させていく。		

指定管理者自己評価

(1) 今年度の取組みに対する評価

① サービス向上に向けての取組み

◎脱コロナ対策

・コロナ禍で新たなボランティアの受け入れを中止していたが、今年度より再開。「アートプログラム」を再開。また、新たにフルート奏者による「ファミリーコンサート」や長野県歯科衛生士会の皆さんの「虫歯予防イベント」、「地域の方の散髪講座」等を開催した。地域の方々等と共に子育て中の親子を支え、子育ての喜びを共感できる社会環境の整備につながった。

・休日マタニティセミナーは、コロナ禍では来館者と関わらないように実施していた。今年は広場が通常開館の中での開催になったので、広場を利用する親子を見ることで、生まれた後をイメージすることができると好評だった。出産後、親子での利用にもつながっている。

◎SDG's

・リユースマーケットを子ども服中心に毎月末1週間程度実施。育児用品やおもちゃ、絵本などを希望する声もあるので、権堂イーストプラザと連携して春秋2回「まちなかリユースマーケット」を権堂イーストプラザを会場に開催した。各回100名以上が来場。

・大きくなりサイズが合わなくなった紙おむつや粉ミルク等を預かり、保健所や保健センターに問い合わせし、必要としている親子へ届けている。ママ達もSDG'sの観点で社会貢献しているという意識が醸成されている。

◎子育て支援

・共働きの親子に向けての支援として、土日に子育て講座等を開催。自発的に子育てに関わるパパ達の「ながのわくわくパパ講座」実行委員による「パパ講座スペシャル パパと遊ぼう!」を土曜日の午前中に開催。実行委員2名が中心になってパパと子ども達でダイナミックに室内遊びを行い、普段子どもと関わる機会が少ないパパに好評だった。また、「親子で絵本タイム」を月1回土曜日に開催し、子育てを楽しむツールとしての絵本の提案などを行い、興味・関心に応じて「遊びと体験」につながるよう支援した。

・毎日2回、「来館者向けのお楽しみ時間」を実施し、スタッフが親子と歌や手遊び、体遊びなどを一緒にやっている。子どもの育ちに合わせた内容で、家庭に帰っても子どもとのふれ合いに役立ててもらえるよう工夫している。

・子育てに不安や負担感を感じている保護者には子育てコンシェルジュが相談にあたっている。相談している間スタッフが子どもを見守っていることで、じっくり相談することができ、利用者の大きな安心感につながっている。

・ホームページをリニューアルし、目的のページにたどり着きやすくなるように改良した。ブログもトップに配置し、写真も入れ、見やすくした。

・併設の「長野市ファミリー・サポート・センター」の預かりの活動場所として、地域子育て支援拠点事業実施場所であることも広場が認められたことにより、ファミサポの利用者の利用の幅が広がった結果、広場利用者の増加にもつながった。

② 業務の効率化に対する取組み

・昨年から導入された入館システムは、来館者に好評で、入退館の受付がスムーズにできている。利用者に関するデータ収集にも利用でき、日常業務の中でもデータを使って業務改善に生かしている。

・休日マタニティセミナーは、保健所と協力して、16組を1度に受け入れ、1クールで開催した。1回の参加者が増えたことで、参加者同士が多くの夫婦と交流することができ、好評だった。

・お食事コーナーを再開したが、同じ方向を見て食べてもらうようテーブルを配置した。また、各テーブルにアルコールウェットティッシュを設置し、食べた後各自で机を拭いてもらうことで、利用者に感染対策の協力をいただいた。

・子育てコンシェルジュの相談も多岐にわたり、様々な専門機関へつなげている。他の支援機関との連携を深め、より親子に寄り添った支援になるよう努めている。

③ その他

・幼児期までのこどもの育ちの5つのビジョンに基づき妊娠前から途切れない支援ができている。マタニティセミナー～ねんねの会～0歳児の会等年齢別のおしゃべり会を開催し、それぞれの月齢に合わせた支援を行っている。保護者とともにこどもの成長を見守り、ともに成長を喜び、子育てを楽しんでいることができるような支援を行っている。

・こども広場の持つ特性を活用し「休日マタニティセミナー」「多胎児育児相談事業」等長野市との協働事業、「長野市キャリア教育推進事業赤ちゃんだっこ」を受託、また「はじめての「ながの」ウェルカム交流会」は委託が終わっても継続し開催。広場利用者親子のみならず妊産婦家族、中学生、長野市転入者、多胎児の家族等地域住民への支援ができ、より有効な事業とすることが出来た。

・年5回のスタッフミーティングの際に、研修会を行い、スタッフ全体の資質の向上に努めた。

・長野市緊急時における災害支援ネットワークに参画し、台風19号災害の体験を基に「長野市緊急時の子ども支援ガイドライン」の制作に貢献。様々な団体と連携が持て、いざという時に役立つネットワークができた。広場は常設しているのも、緊急時はタイムリーに支援に入ることができることから、事務局として対応していく事となった。

・令和6年能登半島地震の際には、利用者にも募金を募り、26,000円を石川県の子育て広場2か所に送った。また、発災直後、被災者からのSOSを受けて物資をSNSで募集し、長野市社協から長野県社協を通じ、おむつやおしりふき、ミルク等を送った。

(2) 指定管理者業務実施上の課題

・コロナ禍以降に採用したスタッフが約半数になり、新しいスタッフがコロナ前の広場の状況を把握していないため、1年かけて各スタッフの動き等を見直したが、今後も折に触れ改善していく必要があると思われる。

・コロナだけでなく、様々な感染症が次々と流行している状況なので、おもちゃの消毒や環境整備に心がけたい。

・開設から20年を経過し、施設の経年劣化から傷んできている箇所が見受けられる。利用者のけが等につながる懸念があるため、適切に修繕したい。

(3) 総合評価

評価基準

【A】計画や目標を大きく上回る 【B】計画や目標を上回る 【C】計画や目標どおり
【D】計画や目標を下回る 【E】計画や目標を大きく下回る

指定管理者
自己総合評価

A

① 評価理由

・昨年までも月齢別のおしゃべり会を開催していたが、今年は生まれ年度別ではなく、実質の月齢(0～6か月、6か月～1歳のお誕生月、1歳のお誕生月～2歳のお誕生月、2・3歳児)に分けておしゃべり会を実施。より月齢が近く同じような悩みを持つ親子が集まることによって、相互に理解し合い子育ての不安感解消につながった。

・スタッフは、日々の来館者と接するにあたり、自己研鑽に励み、子どもの発達を促すよう工夫し、一人一人が健やかに育つよう保護者と連携し活動している。

・「安全チェックリスト」を見直し、毎日用と月1回用に分け、日々環境の安全点検をし、事故防止に注意している。更に「ヒヤリハット」報告書を作成し、事例を共有・検証し、日々の活動に生かしている。

・一場所多機能の活用…拠点型こども広場事業、ホームスタート事業、利用者支援事業、併設されている長野市ファミリー・サポート・センター事業等多機能を有し、それらを活用した支援を長野市子育て家庭福祉課、保健所、中央児童相談所等専門機関や主任児童委員協議会等地域連携の中で行い、子育て中の市民からの問い合わせも多く、地域の子育て支援の中核となり喜ばれている。また、広場内で複数の事業を合わせて行っていることで、利用者のニーズに迅速・柔軟に対応することができている。

・広場開設20周年記念事業。長野市生涯学習センターを会場に、武庫川大学教授 倉石哲也氏を講師に招き講演会を開催。子育て当事者や子育て支援者、65名が参加した。

② 次年度以降の取組み

・スタッフの資質向上

子どもの最善の利益を実現するためには何が必要かを常に考え、行動できるスタッフを養成する。利用者のニーズを汲み取りながら、子育てに伴う喜びを保護者と共有できる子育てのパートナーとなる。

・相談業務の充実

子育てコンシェルジュが身近な相談相手として、利用者にはかなり浸透してきているが、なかなか広場に来られない親子のために、出張広場へコンシェルジュが出向き、相談の機会を提供する。

・パパ講座の充実

昨年度よりパパ講座の実行委員が3名になったこともあり、更にブラッシュアップし、主体的に子育てするパパへのサポートをする。

・土日開催の講座等の拡充

平日に利用できず、土日祝日等に家族そろって来館する親子が増えてきているため、家族皆が楽しめるイベントや子育て講座等の開催を増やし、共働き世代への支援を充実させる。